



食環協 ニュース 129

編集／発行 公益社団法人食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階
TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 HP <https://www.kankyobika.or.jp>

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第17回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

去る1月27日(金)、「浅草ビューホテル」(東京都台東区)3階「祥雲の間」において「第17回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。17回目を数える今年も、表彰校の生徒や児童および教職員を始め、行政や飲料団体関係者、報道機関から多数の参加をいただきました。春を思わせるおだやかな陽気のもと、会場は功績を賞賛する盛大な拍手とともに温かい祝福ムードに包まれました。

この表彰は、環境美化教育に独創的、継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、40都道府県から推薦を受けた小・中学校40校の中から、審査会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校30校の表彰校については、P9以降に掲載されています。



表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の構成団体である大塚製薬執行役員の東隆会長があいさつし、表彰事業の歴史や意義について述べました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容をスライド映像で紹介。各校の生徒や児童が住民と連携して、地域特性を生かした環境美化活動に励む様子が動画やスライドを通して披露されると、参加者は熱心に聞き入り、時折メモをとる光景も見られました。

賞状・副賞授与に続いて、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。審査の評価基準に触れながら講評し、「科学的根拠を踏まえた環境美化活動の実践により、地域の皆さんとの一体感を熟成していくこと、地域が屋根のない学校になり、活動への共感を広く発信していくことが重要」であることを強調しました。



また、来賓として出席された文部科学省の岡村勝文氏、農林水産省の添野覚氏、環境省の鈴木弘幸氏からは、「持続可能な社会環境づくりに向けて、地域と連携を深めながら美化活動に継続して取り組まれることを期待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、東京スカイツリーや浅草界隈が一望できる25階「大輪の間」に移動し、食事や飲み物を囲みながら和やかに懇談会が行われました。乾杯のあいさつでは、東隆会長が受賞校の活動をあらためて賞賛するとともに、「3年後に開催される東京オリンピックでは、日本の美しさを訪問客に感じていただけるように、みなさんがリーダーとなって地域とともに美化活動に励んでください」とエールを送りました。懇談会の途中、受賞校の生徒や児童による環境美化活動の紹介が行われ、工夫を凝らした寸劇やスピーチに会場は大いに沸きました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

主体的に地域と対話しながら深い学びにつなげる アクティブ・ラーニングの視点が重要

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子氏



学習指導要領の改訂が行われている今、教育は大きく変わろうとしています。新しい時代に入り、それぞれの地域、あるいは日本、そして世界の課題に立ち向かっていくためには、教科書に書いてあることを飛び越えて、主体的に地域の方々との対話をしながら深い学びにつなげていくアクティブ・ラーニングの視点が重要になってきます。今回受賞された4校を始め、全国の都道府県から推薦いただいた小中学校の取り組みは、地域の具体的課題に着目し、地域の方々と解決しようとする素晴らしい活動や学びにつながっていました。これからも、科学的根拠に踏まえながら地域の皆さんとの一体感を熟成していくこと、地域全体が「屋根のない学校」となって取り組むことが大切です。そうした学びが持続可能な地域社会をつくる、まさにEducation for Sustainable Development (ESD) だと考えております。

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育「ESD」へと 発展し広がることを期待

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 専門官 岡村 勝文様

文部科学省では現在、学習指導要領の改訂作業を行っています。新しい時代に求められる学びは、大きく2つの流れに分けられます。ひとつは、主体的・対話的に深い学びを実現する「アクティブ・ラーニング」を目指し、内容を充実させていくことです。今回受賞されたみなさんは、活動の中で既にアクティブ・ラーニングを実現されていました。もうひとつは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育「ESD」(Education for Sustainable Development) に取り組むことです。みなさんが取り組んでいる環境活動に関して言えば、小学校においては理科や社会科、道徳などの教科を通じて行われていますが、中学校では、河川からのごみ問題を取り上げるなど学びがより深くなり、ESDへと発展しているのを実感しました。これからも、このような活動に継続して取り組んでいただき、広がっていくことを期待しています。



美化活動で培われた公共奉仕の精神や環境保全への意識が、今後の人生に生かされる

農林水産省 食料産業局 食品製造課 課長補佐(食品第3班担当) 添野 覚様

今回、優良校として表彰され、推薦された各校におかれましては、日頃より空き缶やペットボトル等の散乱防止活動やリサイクル活動に積極的に取り組まれていると聞いております。これらの活動を通して培われた公共への奉仕の精神や環境保全に対する意識は、必ずみなさんの今後の人生において、また将来の日本経済社会の発展に生かされるものと思います。農林水産省では、農村や漁村の環境保全を始め、食品産業等と連携し、食品ロスや食品残さを始めとする食品廃棄物の発生抑制に注力しているところです。こうした取り組みについて、ご参集の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。受賞校のみなさま、本日ご臨席の関係者のみなさま方のますますのご活躍をお祈りするとともに、今後もこのような活動が一層活発になることを願っています。



持続可能な社会環境を考えることができる人を1人でも増やすことが何よりも重要

環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室 室長補佐 鈴木 弘幸様



いま世界では、持続可能な社会をつくることが求められています。国連でも持続可能な開発の目標といわれる世界的な道標を決めています。その持続可能な社会には大きく分けて3つのテーマがあります。1つめは、地球温暖化を防ぐための取り組み、2つめは、自然環境を守りさまざまな命を大切にしている取り組み、3つめは、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを進めて循環型社会をつくり、資源有効活用の仕組みをつくる取り組みです。環境省は、この3つの取り組みを推進しています。科学的知識を増やし、開発することは大切です。また、法律や社会の仕組みをつくることも大切です。しかし、何より大切に欠かせないことは、持続可能な社会環境を考えることができる人を1人でも増やすことだと思います。そこで、受賞されたみなさんにあらためてお願いがあります。今日の受賞を機に、みなさんの周りの方々に環境を守る大切さを伝えてください。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

児童が励む美化活動が行政や住民を動かし地域の連帯感を育む

すぎなみだいほち
文部科学大臣賞 東京都 杉並区立杉並第八小学校



東京の夏の風物詩として知られる「東京高円寺阿波おどり」。年々規模が拡大する一方で、会場に散乱するごみ問題が深刻化している。その解決に立ち上がったのが、同校6年生の児童たちだ。祭り当日のごみ回収を呼びかける活動を2012年に開始して以来、毎年取り組みを深化させながら地域の輪を広げている。児童は祭りの2か月以上前から、地域団体や住民、行政の協力を得てさまざまな活動を展開。最初に、住民にごみの意識調査を実施、その結果を祭りの主催団体へプレゼンし、活動のアドバイスをもらう。また、祭りとは無関係の壊れた家電などが捨てられる「便乗ごみ」問題に目を向け、杉並区長や清掃事務所にごみの臨時回収協力を直接請願。地域へも飛びこみ、手づくりのごみ削減啓発チラシを配り、町内会や商店街に掲示協力を募る。祭り当日、児童は会場の観客に呼びかけながら資源ごみを回収。祭り終了後はごみの状況調査を行い、その結果をまとめて発表し、最後は5年生に引き継ぐ。ごみの問題を機に、児童はふるさとへの愛着を深めている。

東京都杉並区立杉並第八小学校 校長 黒川 雅仁氏 主任教諭 中野 富雄氏(上部写真右)

「本校がこれまで進めてきた環境美化教育が今回評価されたことをたいへんうれしく思います。この活動を行った子どもたちが10年、20年経った時に、どのような大人になって、どのように街づくりに関わってくれるのかが、今から非常に楽しみです」

東京都 教育庁 指導部 主任指導主事 板澤 健一氏(下部写真右) 東京都 杉並区立済美教育センター 指導主事 小熊 隆一氏

「杉並区の行事の中で、地域の方々とともに児童ができることを考えて問題解決に取り組んできた活動が評価されたことは、これから杉並区内で同じような取り組みを進めていくうえでとても貴重な体験になりました」

食品容器環境美化協会 企画委員 株式会社ヤクルト本社 広報室CSR推進室 入船 豊昭氏(下部写真左)

「このような形で地域の学校と地域のみなさんが、美化活動を通じて環境意識の高い子どもたちを育てていき、将来、中心となって環境活動を行う大人になってくれることを願っています」



海底ごみの回収活動と啓発活動の両輪で瀬戸内海を救う

農林水産大臣賞 さんよう じよし 岡山県 山陽女子中学校地歴部

内海ならではの海の幸に恵まれた豊かな瀬戸内海で今、深刻な環境問題となっている「海底ごみ」。その解決に向けて2008年から、漁船から海底ごみを回収する活動と、ごみの発生抑制のための啓発活動に同校地歴部が取り組む。回収活動では、漁業者の協力のもと、生徒が漁船に乗船し、沖へ出て底曳き網を利用してごみを回収分別。網には、魚介類に交じってペットボトルや空き缶などの生活ごみや、不法投棄された産業廃棄物が混入している。船上での回収活動を通じて、海底ごみの多くは瀬戸内海に注ぐ河川から流入する生活ごみであることを突き止めた生徒は、その生活ごみの発生を抑制するための啓発活動も開始した。認知度が低い海底ごみを知ってもらうために「海ごみかるた」を手づくりし、地域の公民館などで出前授業を実施。さらに、閉鎖性海域である瀬戸内海の海底ごみ問題の解決には、沿岸域全体への働きかけが必要であることを痛感し、対岸の香川県で啓発活動を行う。環境の国際会議にも参加し、使命感や責任感を持って世界に情報発信している。



岡山県山陽女子中学校地歴部のみなさん

「私たちが活動してきたことが認められてとても光栄です。この取り組みは地歴部だけで成り立っているわけではなく、漁船を出してくださる漁業者を始め、多くのみなさんの協力があっでできていますので、本当に今は感謝の気持ちでいっぱいです」

岡山県 環境文化部 循環型社会推進課

主任 岡部 吉雅氏(下部写真右)

「海底ごみの問題は注目を浴びており、県においても昨年からごみ回収や意識啓発に関する事業を行っているところです。山陽女子中学校地歴部のみなさんには、とても貢献いただいております、県としても期待しています」

岡山地方連絡会議 大塚製薬株式会社

岡山出張所 所長 熊谷 典昭氏(下部写真左)

「壮大な海洋問題に部活動として取り組んでいる例はあまり聞いたことがなく、素晴らしい取り組みだと思います。こうした活動を共有し、水平的に情報展開していくことが重要だと考えています」

児童が住民に呼びかけた川の清掃活動で清流を取り戻す

環境大臣賞 石川県 七尾市立小丸山小学校



市内を流れながら七尾湾に注ぐ御祓(みそぎ)川は十数年前、県下一のドブ川と呼ばれていたが住民たちの努力により徐々に改善してきた。その川を校区に持つ同校の児童たちは、もっと美しい川にしようと地域と連携して川の水質・水生生物調査や清掃活動を行っている。まずは、川の現状を把握するために、主に6年生児童が、川の上流、中流、下流に出向き、定点で棲息する生き物を毎年調査。環境保全意識は自然と高まり、地域で開催されるさまざまな美化活動に参加するようになった。こうした活動を重ねる中で、「今度は自分たちができることを企画しよう」との思いが生まれた児童は、「御祓川クリーン大作戦」を企画。地域住民に清掃協力を募る新聞を手づくりし、町会長を通じて校区全世帯に配布するほか、川への関心が低い世代向けにフェイスブックで発信するなど、広くPRしているのが最大の特徴だ。参加者は年々増加し、児童の活動を後押しする動きも加速。最後に、児童は5年生に引き継ぎながら自分たちの願いや思いを次に託している。

石川県七尾市立小丸山小学校のみなさん

「今までの先輩たちの思いも自分たちの思いも全部がひとつになって、審査委員の人たちに伝わったと思ってうれしい気持ちでいっぱいです。私たちが住む地域の環境をもっとよくするために、1人でも多くの方がごみを捨てないように呼びかけを続けようと思います」

石川県 七尾市 教育委員会 学校教育課 課長補佐兼指導係長 種谷 多聞氏(下部写真右)

「七尾市はふるさとに誇りを持って将来たくましく生きる子どもたちを目指しています。今回、七尾市全体で取り組んでいることが受賞につながったと捉えており、今後も組織的に継続して取り組みたいと思います」

北陸地方連絡会議 GRNホールディングス株式会社 HMT事業本部 岡田 裕之氏(下部写真左)

「北陸地連として今回で3年連続受賞になることをうれしく思います。この受賞を機に、少しずつでもいいので地域から市、あるいは県、そして北陸全体の中で環境美化活動が広がっていくことを願っています」



地域と協働で取り組む史跡保全と環境美化が育む自己肯定感

協会会長賞 広島県 福山市立中条小学校^{ちゅうじょう}

ホテルが舞う豊かな自然に囲まれた同校では、地域と協働でさまざまな美化活動を実践している。中でも特徴的なのが、登録有形文化財の「砂留」や、江戸時代の漢学者「菅茶山」と関わりが深い寒水寺など、地域に点在する史跡の保全を兼ねた取り組みを行っている点だ。同校のそばを流れる堂々川では、地域団体や行政とともに水質調査を実施。同時に、江戸時代に築造された砂留周辺の環境整備に励みながら、不法投棄やイノシシ対策として川の土手沿いに彼岸花の植樹を植える活動も行っている。また、山中に佇む寒水寺へ登る古道では、住民の後押しを受けて児童が立札を設置したり、散乱ごみを回収したりさまざまな保全活動を行う。こうして児童は常に地域とのつながりを実感しながら環境美化と史跡保護に努める。その背景にあるのは、代々受け継がれてきた一斉清掃下校の取り組み姿勢だ。住民が見守る中、児童は下校時に道路わきに散乱している空き缶などを積極的に回収。美化活動を通した住民の温かいまなざしが児童の自己肯定感を育てている。



広島県福山市立中条小学校のみなさん

「子どもたちが今まで自分たちの地域のことを考えて続けてきた活動が、受賞につながり評価されたことは喜びであり、子どもたちの充実感や達成感につながっていくのではないかと思います。環境教育に関わってくださった地域の方々や福山市に心から感謝申し上げます」

広島県 環境県民局 環境政策課 事業調整員

内藤 記枝氏 (下部写真右)

「福山市は環境活動がとても盛んなところですよ。去年に続き受賞できたことを大変喜んでます。子どもたちによる訴えかけはすごく大切だと思っているので、私たち行政も支援しながら広げていきたいと思っています」

広島地方連絡会議 キリンビバレッジ株式会社

中四国地区本部 企画総務部 久次米 章彦氏 (下部写真左)

「学校教育と地域がつながった素晴らしい活動が行われていることに、地連としても誇らしい気持ちです。こうした取り組みが、いろんなところに広がっていくきっかけを作ればいいなと考えているところです」

第17回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校

最優秀校 (4校)

- 文部科学大臣賞 東京都 すぎなみだいほち 杉並区立杉並第八小学校
- 農林水産大臣賞 岡山県 さんようじよし 山陽女子中学校地歴部
- 環境大臣賞 石川県 こまるやま 七尾市立小丸山小学校
- 協会会長賞 広島県 ちゅうじょう 福山市立中条小学校



優秀校 (6校)

- | | | | |
|-----|--------------------------------------|------|----------------------------------|
| 福島県 | <small>おおくま</small> 大熊町立大熊中学校 | 茨城県 | <small>すけがわ</small> 日立市立助川中学校 |
| 福井県 | <small>かつやまちゅうぶ</small> 勝山市立勝山中中部中学校 | 徳島県 | <small>あいずみきた</small> 藍住町立藍住北小学校 |
| 長崎県 | <small>やはた</small> 壱岐市立八幡小学校 | 鹿児島県 | <small>にしめ</small> 阿久根市立西目小学校 |

優良校 (30校)

- | | | | |
|------|---|-----|------------------------------------|
| 青森県 | <small>おくない</small> 青森市立奥内小学校 | 岩手県 | <small>こずや</small> 一戸町立小鳥谷小学校 |
| 宮城県 | <small>ののだけはくさん</small> 涌谷町立篁岳白山小学校 | 山形県 | <small>りょうせい</small> 寒河江市立陵西中学校 |
| 栃木県 | <small>はがひがし</small> 芳賀町立芳賀東小学校 | 群馬県 | <small>はが</small> 前橋市立芳賀中学校 |
| 埼玉県 | <small>きざわ</small> 戸田市立喜沢小学校 | 千葉県 | <small>たつみだいにし</small> 市原市立辰巳台西小学校 |
| 神奈川県 | <small>かものみや</small> 小田原市立鴨宮中学校 | 新潟県 | <small>だいにうえだ</small> 南魚沼市立第二上田小学校 |
| 富山県 | <small>いくじ</small> 黒部市立生地小学校 | 山梨県 | <small>えんざん</small> 甲州市立塩山中学校 |
| 長野県 | <small>さんのう</small> 長野市立山王小学校 | 岐阜県 | <small>きたがた</small> 北方町立北方中学校 |
| 静岡県 | <small>まぎのはら</small> 牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校 | 京都府 | <small>やくの</small> 福知山市立夜久野中学校 |
| 愛知県 | <small>さくらがおか</small> 名古屋市立桜丘中学校 | 兵庫県 | <small>あおがき</small> 丹波市立青垣中学校 |
| 大阪府 | <small>おおよど</small> 大阪市立大淀中学校 | 山口県 | <small>きざん</small> 周南市立岐山小学校 |
| 和歌山県 | <small>こうやぐち</small> 橋本市立高野口小学校 | 愛媛県 | <small>ちかみ</small> 今治市立近見中学校 |
| 香川県 | <small>かさだ</small> 三豊市立笠田小学校 | 福岡県 | <small>そねひがし</small> 北九州市立曾根東小学校 |
| 高知県 | <small>おおどち</small> 香美市立大桁中学校 | 熊本県 | <small>えず</small> 熊本市立画図小学校 |
| 佐賀県 | <small>せふり</small> 神崎市立脊振中学校 | 宮崎県 | <small>とみたか</small> 日向市立富高小学校 |
| 大分県 | <small>はるきがわ</small> 別府市立春木川小学校 | | |
| 沖縄県 | <small>なぐら</small> 石垣市立名蔵小中学校 | | |

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第17回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校において授与式が行われました。その様子を一部ご紹介します。

【優秀校】受賞校6校のうち1校を抜粋紹介

鹿児島県阿久根市立西目小学校

同校のそばにある飛松海岸は海がめの産卵地として知られる。その豊かな自然環境を守るために、10年以上にわたり海岸清掃活動「海岸クリーン」に取り組んでいる。収集したごみは、ペットボトルや空き缶、ビン、燃えるごみなど7種類に分別し、学校に持ち帰る。次代を担う児童が定期的に清掃することにより、地域住民の環境美化に対する意識が向上。また、学校周辺の清掃「環境タイム」を年間通じて22回行っている。こうして、日ごろから地域美化に努めることで児童は環境保全意識を養っている。住民からは、称賛や励ましの言葉が届いている。



「これまで取り組んできた海岸清掃活動「海岸クリーン」が認められて、たいへんうれしく、今後の活動の励みとなります。この受賞をきっかけにしてこれからも張り切って地域の美化活動を行っていきます」

【授与式の出席者】 ●鹿児島県阿久根市立西目小学校のみなさん ●鹿児島地方連絡会議 高橋 俊文氏 (キリンビール株式会社)

【優良校】受賞校30校のうち5校を抜粋紹介

栃木県 芳賀町立芳賀東小学校

“ものを大切にする”という意識を高めるために、福祉委員会が中心になった始めたアルミ缶リサイクルは、平成10年から継続して行っている活動だ。収益金で車イスを購入し、町内の福祉施設に寄贈。月2回行うほか、町主催の「クリーン芳賀環境美化の日」にも参加、自治会単位で空き缶回収などに努めながら、児童は地域の一員としての自覚を養っている。



「私たちの小さな力でも、資源物を回収することを通して、環境美化だけでなく、地域の人の役に立てることは大きな喜びです。この意義のある活動を、私たち自身の心の成長のためにも、長く続けていきたいです」

【授与式の出席者】 ●栃木県芳賀町立芳賀東小学校のみなさん ●芳賀町教育委員会こども育成課 課長補佐兼学校教育係長兼指導主幹 手塚 幸子氏
●芳賀教育事務所学校支援課 副主幹 生井 克成氏 ●栃木地方連絡会議 高木 英俊氏 (大塚製薬株式会社)

長野県 長野市立山王小学校

20年近くにわたり牛乳パックを回収し、NGO法人を介してネパールの山に植樹する活動に参加している。牛乳パックは15枚で苗木1本分の代金になることなどを学びながら、毎年6年生が引き継いでいる。この活動は地域でも知られており、牛乳パックを持ち寄る住民もいるなど、児童は誇りを持って取り組んでいる。週1回の通学路のごみ拾い登校にも励んでいる。



「これまでの活動の積み重ねが評価されて、今回表彰して頂いたことをたいへんうれしく思います。また、メディアにも取り上げて頂いたことは児童たちの励みとなりました。さらに今後に繋げていきたいです」

【授与式の出席者】 ●長野県長野市立山王小学校のみなさん ●NGOカトマンドウ 国際理解教育係 笠井 雪子氏
●長野県環境部資源循環推進課資源化推進係 本山 聖一氏 ●長野地方連絡会議 小林 宏行氏、田中 誠氏、米山 保氏
●長野市教育委員会事務局学校教育課 指導主事 大日方 正壽氏 (北陸コカ・コーラボトリング株式会社)



京都府 福知山市立夜久野^{やくの}中学校

平成25年に小中一貫教育校として「夜久野学園」が誕生し、開校4年目の現在、小学生とともにアルミ缶回収運動などを実施している。回収ボックスを設置し、毎日回収するほか、年に数回強化週間を設けている。今年は、その収益金を熊本地震で大きな被害を受けた被災地へ義援金として寄付するほか、身近な環境資源を活かす活動を積極的に展開している。

「長年の取り組みが評価され、社会貢献の大切さをあらためて感じました。また、企業が利益を追求するだけでなく、様々な活動でその利益を社会に還元し、未来に役立てられていることも学べる機会となりました」

【授与式の出席者】 ●京都府福知山市立夜久野中学校のみなさん
●京都地方連絡会議 土岐 嘉久雄氏（アサヒビール株式会社）

香川県 三豊市立笠田^{かさだ}小学校

市の景勝地、天保山親水公園に隣接する同校では、児童と保護者、地域が一体となったりサイクルや清掃活動に長年取り組んでいる。地域の伝統でもある美化活動の精神が受け継がれている児童は、主体的にボランティア清掃やアルミ缶リサイクルを実施。平成23年からは、シューズリサイクルも開始し、アフリカに寄贈するなど国際貢献も積極的に展開している。



「以前から続けてきた活動を表彰していただきうれしく思っています。この取り組みは、父母の方々や地域のみなさんの協力があって成り立っているのも、みなさまにも感謝しながら、今後も引き続き実施していきます」

【授与式の出席者】 ●香川県三豊市立笠田小学校のみなさん ●香川地方連絡会議 乾 清人氏（サントリーフーズ株式会社）
●香川県環境森林部廃棄物対策課 松廣 大基氏 高見 秀樹氏（キリンビール株式会社）
●香川県環境森林部廃棄物対策課 田村 聡子氏



愛媛県 今治市立近見^{ちかみ}中学校

平成6年からアルミ缶回収を実施するかたわら、リサイクル業者の引き取りまでの期間、空き缶アートを制作し作品を展示、多くの人たちを楽しませている。今年で23年目となるこの活動は、近隣住民だけではなく、市全域に認知されており、夏の風物詩の一つとしてランドマークにもなっている。住民や企業などアルミ缶を持ち寄る協力体制も整い、環境意識の向上に寄与している。

「全校生徒約160人でアルミ缶を9千個集めることは結構大変ですが、家族やOB・地元の方も作業を手伝いに来てくれます。これからもこの取り組みを通じて環境美化の気持ちを忘れずに続けていきたいと思えます」

【授与式の出席者】 ●愛媛県今治市立近見中学校のみなさん ●今治市役所市民環境部リサイクル推進課 課長 宗方 正幸氏
●愛媛県民環境部環境局循環型社会推進課 係長 宮下 英和氏 ●今治市役所市民環境部リサイクル推進課 田村 幸彦氏
●愛媛県民環境部環境局循環型社会推進課 主事 三浦 直也氏 ●愛媛地方連絡会議 宮下 俊哉氏（四国コカ・コーラボトリング株式会社）

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。

自由研究・
調べ学習に



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります!

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイ捨てストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?

イラストや画像いりて
楽しくわかりやすい!

ポイ捨てストップってなあに?

「リサイクルしたら何に変身するの?」

- アルミかん
- スチールかん
- ガラスびん
- ペットボトル
- 紙パック

映像資料も
あります!!

ホームページは
こちらから

まち美化キッズ

検索

<https://www.kankyobika.or.jp/kids>

